

J A 介護保険事業 事業別研究会を開催

J A 介護保険事業別研究会を、1月16日（月）に開催し、J A 介護保険事業担当部課長および担当者ら27名が参加しました。

この研究会は、介護保険事業に従事する担当者が、今後の事業展開について認識を深め、J A 介護保険事業の質的向上を図ることを目的に開催しているものです。

全体研修会では、社会福祉法人 農協共済別府リハビリテーションセンター地域リハビリテーション部の伊藤正和主任と神宮武担当を講師に迎え、「効率の良いサービス提供体制の確立に向けて」と題して講演をいただきました。

伊藤主任は、「利用者の自立を進めるサービスの提供を行うために、今のサービス内容を以下の5つの視点をもってスクラップ&ビルドを行うべき」と解説しました。

①サービス内容

自立支援を念頭に、運動特化型、認知症対応型、中重度対応型等の絞ったサービス提供を行う。

②目標設定

生活において本人がしたいことに目標を設定し、本人・家族・ケアマネ・その他事業所等と共有する。利用者・職員も成功体験を積むことが重要。

③声掛け

利用者に対し、目標達成のためにやるという意識づけをするため、なぜ、〇〇するのか、今のサービスから何が変わるのかを説明する。

④対応方法

職員の意思統一を図り、同じ対応ができるようにするとともに、画一化ではなく個別性を重視することが大切である。また、集団につながる仕組みを作るとともに、レクや体操は目標があればマンネリ化を防ぐことができる。

⑤職員教育

職員の意識改革はトップダウンではなく、ボトムアップが重要である。そのために、公費での研修会参加により責任感を持ってもらうとともに、そのことにより職員自身を変えなければいけないという意識を持ってもらうことが大切である。

続いて、参加者が5グループに分かれて、各J Aの現状と課題、解決策などについてグループ討議を行い、講師にアドバイスをいただきながら、情報交換・情報共有を行いました。

今後は、この研究会で話し合ったことをそれぞれの現場で実践し、選ばれる事業所を目指していくことを共有しました。



【事業別研究会で講演を行う伊藤講師】



【活発な意見交換を行ったグループ討議】

J A グループ栃木くらしの活動推進大会を開催



【あいさつを行う高橋会長】

J Aグループ栃木は1月18日（水）、J Aくらしの活動推進大会を開催し、県内J A・連合会の役職員やJ A女性会会員ら約130人が出席しました。

2014年6月に中央会理事会で決定した「『支店・営農経済センターを拠点にしたJ Aくらしの活動』の今後のすすめ方」にもとづき、3カ年運動として、活動の理解促進や体制の整備に取り組んできましたので、大会では3年間の活動を総括するとともに、J Aの事例発表などを通じ、今後の活動への意識を高めました。

高橋武会長は「くらしの活動は息の長い、先行投資的な取り組み。継続して取り組むことでJ A事業利用に結びつく例も出てきている。各J Aで実効ある活動としてほしい」と呼びかけました。



【JA足利 殿岡茂男氏】



【JA足利 柳田裕之氏】

県内J Aの事例発表では、JA足利の生活部生活振興課の殿岡課長補佐と金融共済部の柳田推進トレーナーが、子ども向けの農業体験学習にスタッフとして参加した信用・共済渉外担当者が、後日お礼の訪問を実施し参加者との関係を継続することでJ A事業利用に結びついた事例を紹介しました。



【JA佐野 関根賢司氏】

J A佐野の総合企画部総合企画課の関根氏は、facebookやLINE@などSNSを活用し、くらしの活動をPRしていることで、「組合員・利用者から、SNSを見たという声が聞こえてくるまで諦めずにPRを続けることが重要」と報告しました。

県外の優良事例として、滋賀県J Aグリー

ン近江の大林茂松常務が「地域にとけこむ支店協同活動」について発表し、組合員・利用者との関わりを深める仕組みとして「支店ふれあい委員会」の活動を紹介しました。過去の取り組みの失敗を踏まえながら、組合員の主体的な活動の必要性を訴えました。

また、長崎県立大学の木村務名誉教授が「今、なぜ『JAくらしの活動』か？～自己改革の核心～」と題して基調講演を行い、「くらしの活動によりJAファンを増やすことができる。その活動を継続することにより、JAの資本増強や営農施設などの整備につながれば、農業所得の増大に結びつけることができる」とくらしの活動の必要性を強調しました。



【JAグリーン近江 大林茂松常務】



【長崎県立大学 木村務名誉教授】

第41回「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール 栃木県表彰式を開催

1月6日(金)、栃木県JAビルで第41回「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール栃木県表彰式および祝賀会を開催し、作文・図画の各金賞受賞者と保護者、審査委員等の関係者、約80名が出席しました。

このコンクールは、「みんなのよい食プロジェクト」の一環として、これからの食・農を担う子供たちに、お米、ごはん食、稲作など、日本の食卓と国土を豊かに作り上げてきた稲作農業についての学びを深めてもらうとともに、お米・ごはん食の重要性を広く周知することを目的に実施しているものです。

今年度も県内小・中学校から作文6,372点、図画5,741点と多数の応募をいただき、10月6日に図画、同26日に作文の県審査会を行い、金・銀・銅の各賞と佳作を決定しました。

また、本県の金賞作品を全国コンクールに推薦したところ、全国の応募総数作文52,110点、図画69,805点の中から、作文・図画の両部門で、それぞれ1名が優秀賞に入賞しました。

なお、本県コンクール金賞受賞者の作品は、作文、図画ともに「推進情報」(表紙、裏表紙裏面)に掲載します。また、作文は栃木放送で1月13日(金)から、毎週金曜日の7時33分から受賞者自身の朗読で紹介します。

今後も多くの作品の応募をいただくため、JAのご協力をお願いいたします。



全国コンクール入賞者

<作文部門>

優秀賞 下野市立緑小学校 6年 たけざわ 武澤 あかり 朱里さん (JAうつのみや)

<図画部門>

優秀賞 壬生町立壬生中学校 3年 まえだ 前田 あいこ 亜衣子さん (JAしもつけ)

平成28年度営農指導員資格認証(1級試験)の結果

平成28年度栃木県農業協同組合営農指導員資格認証の1級試験を28年12月16日(金)に実施し、28名が受験しました。

その結果、下記の20名が合格し、中央会会長から認証されました。

＜平成28年度営農指導員資格認証1級認証者（20名）＞

認証番号	所属 JA	氏 名	認証番号	所属 JA	氏 名
331	うつのみや	猪 瀬 英	341	しもつけ	高 橋 謙 元
332	うつのみや	鱒 淵 弥 生	342	しもつけ	増 戸 聡
333	うつのみや	大 金 俊 介	343	足 利	高 瀬 健 志
334	うつのみや	郡 司 昌 孝	344	しおのや	石 塚 英 史
335	うつのみや	福 田 龍 司	345	なすの	田 代 透
336	うつのみや	小 山 雅 史	346	なすの	木 村 岳 志
337	はが野	廣 木 哲 人	347	なすの	水 品 真 哲
338	はが野	谷 口 和 也	348	なすの	屋 代 匡 史
339	はが野	永 田 孝	349	なす南	鈴 木 幸 一
340	しもつけ	成 瀬 章	350	なす南	黒 尾 孝

県特産品の「とちおとめ」を学校給食へ贈呈！

—栃木県教育長へのイチゴ贈呈式を開催—



ＪＡグループ栃木は、農林中央金庫が全国で１，０００億円の資金を拠出して取組む「農業所得増大・地域活性化応援プログラム」を活用した県域企画応援事業の一環として、学校給食へイチゴを贈呈しました。

これに先立ち、１月１２日（木）、高橋会長らが県教育委員会を訪れ、宇田県教育長にイチゴを贈呈しました。



【イチゴ贈呈式】

この事業は、県の特産品のイチゴを県内小学校に学校給食として提供し、子どもたちに食への関心や食を支える農の役割を理解してもらうことが目的です。原則、１月１５日から３０日までの県内の統一期間の中で、県内２５市町３７５小学校のうち１８市町２４３校に贈呈しました（一部ＪＡが費用負担して７７中学校にも贈呈）

高橋会長は「学校給食で栃木県が誇る、特産品のイチゴを子どもたちに食べてもらい、食への関心を深め、食を支える農業の役割を学んでほしい」と話しました。宇田教育長は「子どもたちは、生産量日本一のとちおとめを食べることを通じ、食に対する関心、農業の役割が実感できると思う」と謝意を伝えました。



【イチゴを試食しながらの歓談】

JAグループ栃木大規模災害統一訓練を実施 —業務継続計画の手順を確認—

JAグループ栃木では、大規模災害に備え「大規模災害への対応方針」を定めるとともに、事業継続計画（BCP）において、大規模災害時の状況把握（安否確認、施設の被害状況）と大規模災害後も重要事業として継続して実施すべき業務継続取引についてその手順や進め方を定めています。

今回、1月13日（金）、午後3時30分に震度6強の地震が発生したという想定で、全JA、中央会、連合会が参加して大規模災害統一訓練を実施しました。統一訓練は一昨年12月の実施に引き続き2回目の実施となります。

統一訓練では、電話、FAX、携帯電話がつながりにくく、端末機およびATMは使用不可（但し信用事業相互連携訓練を除く）という想定で、①全職員の安否確認、②施設の被害状況確認、③①②の状況報告を基にJA災害対策本部の設置の判断、④災害時に優先する信用・共済・経済の業務継続取引を実施しました。

業務継続取引について、信用事業は、JA自店内の貯払いを行うとともに、JA1支店で他JA貯金者の貯払いについて農林中央金庫と相互連携し訓練を実施しました。共済事業は、共済事故や共済金支払い受付を実施、JA1支店で共済連がお客様役となり電話を通じた受付訓練を実施しました。また、経済事業は、手書伝票を利用した購買品供給を実施するとともに、今回初めて農業倉庫の被災状況に応じ出庫可能倉庫の特定と米の在庫状況を把握し、全農とちぎへの報告を実施しました。

統一訓練では、中央会・連合会とJA間、JA本支店間の連絡で大きな情報の輻輳もなく、計画していた訓練内容をスケジュールどおり実施しました。今回の統一訓練で課題となった事項について、対応すべき実施手順の整理等の検討をお願いします。

（注）輻輳…利用者のアクセスが集中し通常行える通信ができなくなること。「パンクした」状態。



【JAグループ県域対策本部設置の様子】

「フェイスブック」で情報発信中!

—迅速かつ広く情報発信しています—

平成27年11月に開催したJA栃木県大会において、「食・農・協同組合にかかる国民理解の醸成」を決議し、その中でJA・中央会・連合会は、ウェブサイト、ソーシャルメディア等を通じた情報発信に取り組むこととしています。そこで、農業くらし推進部とJA栃木青年部連盟では、フェイスブック (Facebook) のページを活用し情報発信を行っています。

(1) 農業くらし推進部



農業くらし推進部主催の会議・研修会・イベントの様子や作成したチラシ・ポスターの掲載、農政活動等の情報発信を行っています。



(2) JA栃木青年部連盟



JA栃木青年部連盟では、研修会や青年大会等の県連盟の活動はもちろん、関東甲信越ブロックのイベントや全国の会議等の活動も更新しています。



今後も積極的に情報発信し、コンテンツを充実させていきます。フェイスブックに立ち寄り「👍 いいね!」やコメントをお願いします。

コンプライアンス通信 Vol.4

ーハラスメント(いやがらせ)に気をつけようー

J A 役職員一人ひとりが明るく風通しのよい、働きやすい職場づくりを進めることが必要ですが、特にハラスメントには注意する必要があります。ハラスメントとは、「他者に対する発言、言動等が本人の意図に関係なく、相手を不快にさせたり、尊厳を傷つけたり、不利益を与えたり、脅威を与える」ことです。

ハラスメントとして、セクハラ(セクシャル・ハラスメント)、パワハラ(パワー・ハラスメント)という言葉聞いたことはあるかと思います。セクハラとは、「職場において相手の意思に反して不快や不安な状態に追いこむ性的な言動等で、①性的な言動に対し同僚が労働条件につき不利益を受けること、②性的な言動により就業環境が害されること」と定義されています。職場内での軽い冗談で発した不用意な性的発言も、同僚の受取り方や感じ方次第では、会話の潤滑油に捕らえる場合と、継続的な苦痛を感じる場合があり、人により異なります。苦痛と感じるのであればセクハラかもしれません。J A はセクハラ防止のため、防止規則を定め、賞罰規程で罰則を設けています。

パワハラとは、「職務上の地位や人間関係などの職場内での優位性を背景に、業務の適正な範囲を超えて精神的・身体的苦痛を与え職場環境を悪化させること」と定義されています。上司から部下への的確な業務指示や指導であればよいのですが、優位的立場で心理的な負荷を過度に蓄積させる発言はパワハラです。上司に限らず先輩後輩間や同僚間でもパワハラは発生します。J A はパワハラ防止のため、セクハラと同様、防止規則を定め、賞罰規程で罰則を設けています。

J A の規定を守り、よりよい職場を守るためセクハラ・パワハラを発生させない環境づくりは必要不可欠です。

ところで、今年の1月に「育児休業・介護休業の制度等を見直す育児休業法、介護休業法、男女雇用機会均等法」が改正され施行されました。これにより、妊娠・出産・育児・介護休業等を理由とする嫌がらせ等(いわゆるマタハラ・パタハラ)を防止する措置を講じることを事業主に義務付けました。

- ・ マタハラ(マタニティー・ハラスメント) :
妊娠、出産等に関する言動により女性職員の就業環境を害する行為。
- ・ パタハラ(パタニティー・ハラシメント) :
育児休業等取得等に関し、申出・利用に関する言動により申出・利用した職員の就業環境を害する行為。
- ・ ケアハラ(ケアハラスメント) :
介護休業等に関する規程で定める制度等の申出・利用に関する言動により申出・利用した職員の就業環境を害する行為。

特に、新しく加わったハラスメントについては、賞罰規程で行ってはいけないと規定されましたが、知らず知らずのうちにハラスメントをしてしまう可能性もあります。職員みんなで気をつけて気持ちよく働ける職場づくりにつとめたいものです。

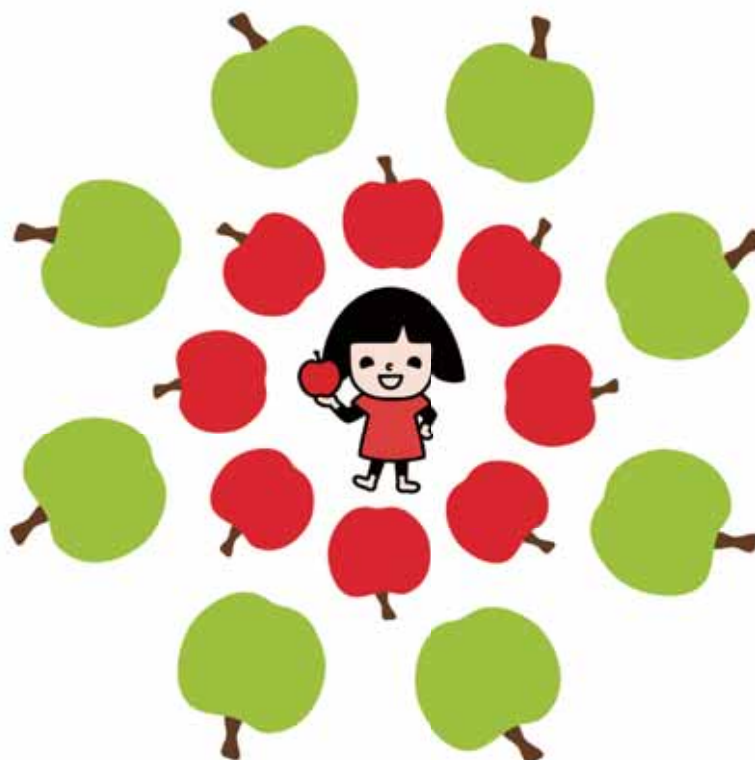
平成28年度農協職員資格認証試験(特級) 試験結果

—特級の認証者は11人—

平成28年度の農協職員資格認証試験(特級)の筆記試験を10月17日(月)・18日(火)に、論文試験を12月12日(月)に実施し、下記の11人が合格しました(前年度合格者数17人)。受験者数68人に対する合格率は16.2%(前年度合格率28.3%)という結果となりました。

特 級 《28年度》

認証番号	氏 名	所属 J A	認証番号	氏 名	所属 J A
496	阿部 一道	うつのみや	502	古橋 達夫	は が 野
497	森成 英樹	かみつが	503	長濱 真弘	お や ま
498	柴山 厚	は が 野	504	峰岸 正浩	お や ま
499	豊田 久美子	は が 野	505	大出 正志	中 央 会
500	片桐 幸栄	は が 野	506	増淵 知宏	共 済 連
501	小倉 聡子	は が 野			



教育センターレポート

—第8回JA中核人材育成研修会の論文発表会・修了式を開催—

1月12日(木)に第8回JA中核人材育成研修会の論文発表会及び修了式を行い、研修生及びJAの役職員ら約55名が参加しました。

この研修は、JAの将来を担う幹部職員を育成することを目的に、5月～10月はJAの理念や経営学を中心に、11月～1月は内部監査士の取得に向けた学習を延べ34日間行いました。また、修了に向けて研修生は「自JAの組織・事業運営上の課題と改革案について」をテーマに論文を作成しました。

当日は午前中、自JAの改革案について1人7分程度のプレゼンテーションを行いました。修了式では、研修生19名全員に全中会長名の修了証書が渡されるとともに、研修期間中に提出された「課題レポート」「論文」および「プレゼンテーション」の審査の結果、以下の5名が表彰を受けました。最優秀賞に選ばれたJAなす南の佐藤亜希子さんは、2月23日(木)に東京都で開催される全国発表会に本県代表として参加する予定です。

今回、研修生が書いた論文の内容が各JAで実践され、JAの自己改革に活かされることを期待します。

最優秀賞	JAなす南	佐藤 亜希子 氏
優秀賞	JAうつのみや JAしおのや	阿久津 真 氏 小堀 俊介 氏
奨励賞	JAはが野 JA足利	森 大規 氏 山 口 準 氏



【表彰を受ける最優秀賞の佐藤さん】

－新入職員3年目フォロー研修会を開催－

新入職員3年目フォロー研修会を1月16日（月）、18日（水）、20日（金）の3班で開催し、12組織121名が受講しました。

この研修は、入組3年目の職員を対象に、1人前の実務のプロを本格的に目指すにあたり、そのモトとなる基本動作（職場での基本動作）を習得することを目的として、今年度初めて実施しました。

研修では、①組織・協同組合の理解、②着実な仕事の進め方（マネジメント・サイクル）、③仕事の改善、④コミュニケーション、⑤組合員および外部対応、⑥実務のプロを目指す（継続的な自己啓発）について、事例研究のグループ討議を中心に学びました。

受講者からは「仕事の進め方について理解できた」「事例を基にグループ討議を行う研修形式が理解しやすかった」「農協改革を改めて学ぶことができ参考になった」などの感想が聞かれました。

今回の研修で学んだことを生かして、さらなる成長、飛躍を期待します。



【グループ討議を行う受講生】

J A教育センター主催の2月・3月の研修会等の開催予定は下記のとおりです。

日 程	研 修 会 名	対 象 者
2月2日	内部監査士検定試験	内部監査士検定試験 受験者
2月3日	新入職員地区別交流会(県北地区)	新入職員
2月7日	農協監査士養成研修会①	29年度農協監査士試験 受験予定者
2月8日	新入職員地区別交流会(県南地区)	新入職員
2月14日	新入職員地区別交流会(県中地区)	新入職員
2月14日	農協監査士養成研修会②	29年度農協監査士試験 受験予定者
2月17日	新任役員フォロー研修会	新任理事・監事
2月21日	農協監査士養成研修会③	29年度農協監査士試験 受験予定者
3月16日	農協監査士養成研修会④	29年度農協監査士試験 受験予定者

※受講申込は、J A栃木教育センターまで。

(TEL : 028-616-8560 FAX : 028-616-8594 E-mail : kyouiku@tcchu-ja.or.jp)



消費者へ農業理解促進の一環として、下野新聞に毎月1回「ふおーyou とちぎJAプラザ」を掲載しています。

ここで、アンケートを実施し、紙面に対する感想が寄せられていますので、一部ご紹介します。今後の事業取り組みの参考にして下さい。

～11月18日掲載 テーマ JAしもつけの「宮ねぎ」～

【宮ねぎについて】

- ・宇都宮から宮ねぎを求めて栃木まで出かけていきます。宇都宮の店舗でも購入できればと思います。「たくさんの人々に知ってもらうこと」がとても大切だと思います。
- ・宮ねぎの由来などとても感銘を受けました。作る方の努力と食物に対する栽培の方法など緻密に研修された賜物と信じます。これからもブランドとして頑張っていたきたいと思います。
- ・知っているようで知らない野菜の話や生産者さんたちの苦労や努力が書かれていて興味深く読んでいます。また、その野菜を使ったレシピがとても役に立ち、思わず今日の夕食にしよう、その都度取り上げられている野菜を買ったりしています。
- ・地域柄「新里ねぎ」は冬の味覚として楽しんでいます。が、「宮ねぎ」は今回の記事で初めて知り、大変興味を覚えました。生産者の皆様は後継者不足、栽培の困難さ等大変ですが頑張ってください。
- ・野菜の旬がいつなのか分からなくなってしまうほど、スーパーには1年中調達できる今日この頃です。JAのくらしのサポートを見ながら、野菜の旬を感じ取っています。宮ねぎおいしそう。

【JAの取り組みについて】

- ・JA佐野の野菜スイーツ教室いいですね。近かったら行きたかったのに残念！
- ・私の住んでいる地域にも森友直売所がありますが新鮮で低価格で助かっています。地元民は分かっていますが、外部の方は分かりづらいので、このページで紹介しPRをお願いします。
- ・毎回違った栃木の食材を掘り下げて詳しく紹介しているので、今まで分からなかった事を知ることが出来、とても参考になっています。各地の直売所の情報も役立っています。
- ・いつも楽しみです。生産者の方の紹介はとてもよく、元気をもらえます。頑張ってください。

理事会だより

平成29年1月13日(金)に第10回理事会が開催されました。

(協議事項)

(1) 諸規程の改正について

農協法改正に伴う文言修正など、全体的な規程等の見直しについて承認されました。

(2) JAくらしの活動の今後の展開について

従来の取り組みの成果と課題を踏まえた今後の取り組み内容が承認されました。

(2) 共用端末機の更新について

平成29年度に更新する共用端末機の更新のすすめ方が承認されました。

(報告事項)

(1) 平成28年度上期監事監査指摘事項の回答について

(2) 平成29年度共通スケジュールについて

(3) 平成28年度JA全中表彰の内定について

(4) 第58回栃木県郡市町対抗駅伝競走大会へのJAグループ栃木の対応について

(5) 平成29年産の生産数量目標の配分および30年産以降の取組の考え方について

(6) 平成28年度農協職員資格認証試験の結果について

(7) 平成29年度採用職員の内定について

(8) 平成28年度第3四半期仮決算の概況について

(8) JAバンク相談所「相談・苦情の受付対応実績(28年10月~12月)」について

(10) 平成28年度第3四半期「JA栃木ヘルプライン」受付対応実績について

(11) 下野新聞JAプラザふぉーyou読者アンケート結果について

平成29年2月主要行事予定表

	総務企画部	担い手サポートセンター	農業くらし推進部		経営指導部	電算企画運用部	電算開発部	教育部	全国監査機構 栃木県監査部
			農業ライン	くらしライン					
1 水	経営会議	TACアグリビジネススクール④ 集落営農意見交換会(下部質)	生産履歴現地確認検査 (うつのみや)	余裕金運用研究会				内部監査上試験	期中監査Ⅲ しもつけ
2 木		指導員連盟全体交流集会	生産履歴現地確認検査 (しもつけ)					内部監査上試験	しもつけ
3 金			農業政策研修会					新入職員地区別交流会(県北)	
4 土									
5 日									
6 月			生産履歴現地確認検査 (はか野)						
7 火		集落営農法人組織交流会	青年部連盟委員会(PB検討会)	内部監査コンプラ担当部課長会議				農協監査上研修会①	
8 水			需要に応じた生産推進キャラバン					新入職員地区別交流会(県南)	
9 木									
10 金	理事会・運営委員会等			経営者研修会					
11 土									
12 日									
13 月			使農協視察研修会						
14 火								新入職員地区別交流会(県中)	
15 水								農協監査上研修会②	下期全監事研修会
16 木	農林年金対策会議 第4回経営担当者会議								
17 金				企画管理担当部課長会議				新任役員フォロー研修会	
18 土									
19 日									
20 月									
21 火			青年部連盟意見交換会					農協監査上研修会③	
22 水									
23 木			食と農を考えるフォーラム					中核人材全国発表会	
24 金		H28担い手支援セミナー							
25 土			全中広報トップセミナー						
26 日									
27 月									
28 火									

平成29年3月主要行事予定表

日	総務企画部	担い手サポートセンター	農業くらし推進部		経営指導部	電算企画運用部	電算開発部	教育部	全国監査機構 栃木県監査部
			農業ライン	くらしライン					
1 水	経営会議	TACアグリビジネススクール⑩						合同就職説明会	
2 木									
3 金					資産査定実務者研修会				常勤監事会議
4 土									
5 日									
6 月									
7 火									
8 水				女性のJA運営参画研修会					
9 木									
10 金			JA農産物直売所診断結果報告会		JA巡回(決算)				
11 土									
12 日									
13 月	理事会、運営委員会等 全中との意見交換会				JA巡回(決算)				
14 火					JA巡回(決算)				期末監査(3/14~22) うつのみや・しもつけ・佐野 かみつかが足利
15 水				日本農業実践栃木県代表表彰式	JA巡回(決算)				しおのや はが野・おやま・なすの・なす南
16 木								農協監査上研修会④	
17 金				広報トップセミナー					
18 土									
19 日									
20 月									
21 火									はが野・おやま・なすの・なす南 しおのや
22 水					税務申告相談会(1班)				
23 木									
24 金									
25 土									
26 日					JAかみつかが年末移設				
27 月					JAかみつかが統廃合処理	JAかみつか統廃合処理			
28 火					税務申告相談会(2班)	購買オへ研①			
29 水									
30 木					税務申告相談会(子会社)				
31 金									期末監査II(3/31~4/17) うつのみや・しもつけ

平成30年度採用 JAグループ栃木合同就職説明会

JAグループ栃木では、平成30年4月就職希望者を対象に、合同就職説明会を開催します。当日は、栃木県内のJA・中央会・連合会・関連会社など16団体が参加します。県内のJA等が一堂に参加しますので、各団体の特徴や採用情報等を一度に知る事ができるチャンスです!今回は、下野新聞社が主催する「しもつけ就職ガイダンス」と同日・同会場での開催となり、栃木県内の企業約50社も参加いたします。

- 開催日：**平成29年3月1日(水)**
- 時間：受付 11:00~
 - (1) 就活セミナー・JA組織の特徴 11:30~12:50
 - (2) 参加団体によるブース説明 13:00~17:00
- 会場：**「マロニエプラザ」**大展示場 宇都宮市元今泉6-1-37
【アクセス】JR宇都宮駅から徒歩約15分 <公共交通機関をご利用下さい>

<参加予定団体>

- 県中地区：JAうつのみや JAかみつが JAはが野
- 県南地区：JAしもつけ JA佐野 JA足利
- 県北地区：JAしおのや JANあすの JANあす南
- JA連合会・関連会社：JA栃木中央会、農林中央金庫宇都宮支店 JA全農とちぎ
JA共済連栃木 栃木県農業信用基金協会 (株)JAエルサポート
(株)JAグリーンとちぎ

【説明会の進め方】

1. 下野新聞社が主催する「しもつけ就職ガイダンス」と同じ日程で進めます。
2. 最初に「就活セミナー・JA組織の特徴」を80分行います。その後、希望する団体を訪問していただきます。
3. JAおよび企業のブースは自由に訪問できます。

この件に関する問合せ先：JA栃木中央会 教育部 TEL:028-616-8560
E-Mail:kyouiku@tcchu-ja.or.jp



事前予約不要

当日会場にお越し下さい

 **JAグループ**

耕そう、大地と地域の未来。

